2026年10月6日
PRESS RELEASE
報道関係各位

Hakuyokai Neuro-Oncology Center 脳腫瘍センター
札幌柏葉会病院 SAPPORO HAKUYOKAI HOSPITAL

大学病院などの専門施設を中心に行われてきた
「高度・専門的な脳腫瘍診療」を地域でも
札幌柏葉会病院に

脳腫瘍センター開設

脳腫瘍診療を専門とする複数の医師によるチーム医療で、
診断から治療・リハビリまで一貫診療

札幌柏葉会病院（はくようかい）（所在地：札幌市豊平区、院長：中山 若樹）は、脳腫瘍の診断・治療を専門に行う「脳腫瘍センター」を9月1日（火）に開設し、脳腫瘍を専門とする複数の医師による診療体制を整備しました。脳神経外科診療が活発な札幌市では、脳卒中などの脳血管疾患の治療を多くの民間医療機関が担う一方、脳腫瘍、とりわけ専門的な治療を要する症例は、大学病院などの高度医療機関に集約される傾向にありました。その背景には、特に悪性脳腫瘍では手術だけでなく、薬物療法・放射線治療などを組み合わせる「集学的治療」が必要となることがあります。そんな中、当センターでは今回、頭蓋底外科手術や経鼻内視鏡手術をはじめとした専門性の高い手術に対応するとともに、手術後の薬物療法、リハビリテーションまで、一人の患者さんを継続して診療できる体制を構築します。

札幌柏葉会病院「脳腫瘍センター」の3つの特徴

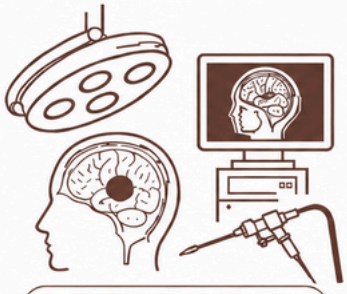
01 脳腫瘍診療を専門とする複数の医師によるチーム医療

脳腫瘍診療を専門とする複数の医師が、それぞれの専門性や経験を生かして治療方針を検討。診療看護師・看護師・リハビリスタッフなど多職種が連携し、診断から術後管理、その後の生活まで支えます。

多職種連携

02 専門性の高い手術に対応

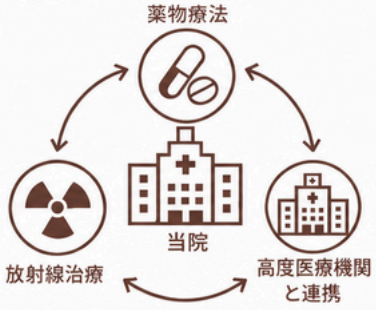
頭蓋底外科手術や経鼻内視鏡手術などに対応。腫瘍の位置や性質、患者さんの状態に応じて治療法を検討し、手術支援機器を活用して安全性と機能温存に配慮します。



頭蓋底外科手術
経鼻内視鏡手術
手術支援機器

03 地域と連携した脳腫瘍診療

手術後の薬物療法は当院で実施し、放射線治療は地域の施設と連携。小児脳腫瘍や特殊治療、高度な薬物療法が必要な場合は高度医療機関と連携し、最適な治療を目指します。



地域で支える診療体制

脳腫瘍診療を、できる限りこの地域で

放射線治療が必要な患者さんについては、地域の放射線治療施設と連携。また、小児脳腫瘍や一部の高度・専門的な治療が必要な症例については、大学病院をはじめとする高度医療機関とも連携し、それぞれの専門性を生かしながら患者さんにとって最適な治療につなげていきます。「脳腫瘍診療を、できる限りこの地域で」を目標に掲げ、患者さんが複数の医療機関を行き来する負担をできる限り軽減し、診断から治療、その後の生活までを見据えた切れ目のない脳腫瘍診療を提供します。

地域の医療機関との連携をさらに強化

脳腫瘍センター開設を機に、札幌柏葉会病院では札幌市内をはじめ、江別・千歳など周辺地域の医療機関との連携をさらに強化していきます。脳腫瘍が疑われる患者さんや、専門的な診断・手術が必要な患者さんをスムーズに受け入れ、その後の治療についても地域の医療機関と連携する体制を構築していきます。将来的には、放射線治療を担う医療機関等とのカンファレンスなども視野に入れ、診療科や病院の垣根を越えた脳腫瘍診療体制を目指します。

また、一般の方に脳腫瘍について正しく知っていただくため、ホームページ等などでの情報発信や市民向け啓発活動にも取り組んでいく予定です。脳腫瘍の患者さんが「どこで治療を受ければいいのか」と迷ったときに安心して相談できる場所になるよう、札幌柏葉会病院 脳腫瘍センターは、地域とともに北海道の脳腫瘍診療を支えてまいります。

脳腫瘍センター長／感染制御部 部長　遠藤 将吾 医師 コメント

「脳腫瘍と診断された患者さんやご家族は、病気そのものへの不安はもちろん、「どこで治療を受ければいいのか」「手術後はどうなるのか」という大きな不安を抱えます。今回の脳腫瘍センター開設によって、診断から手術、その後の治療やリハビリまで、私たちが継続して患者さんに寄り添える体制をつくっていきたいと考えています。

脳腫瘍の治療は、手術だけではありません。薬物療法や放射線治療などを組み合わせる必要がある場合もあり、患者さん一人ひとりに合わせた治療を考えることが重要です。一方で、小児脳腫瘍をはじめ、大学病院などの高度医療機関での治療が適している患者さんもいます。

大切なのは、すべてを一つの病院で行うことではなく、地域の医療機関がそれぞれの専門性を生かし、患者さんにとって最適な治療につなげることだと考えています。大学病院をはじめ、地域の医療機関とも連携しながら、北海道・札幌の脳腫瘍診療における新しい選択肢となれるセンターを目指していきます。

札幌柏葉会病院 脳腫瘍センター概要

【名　　称】札幌柏葉会病院 脳腫瘍センター
【英 語 名 称】Neuro-Oncology Center
【開　設　日】2026年9月1日(火)
【センター長】遠藤 将吾 医師(脳腫瘍センター長/感染制御部 部長)
【所　在　地】北海道札幌市豊平区平岸1条12丁目1番25号

【主な対象疾患】
神経膠腫、髄膜腫、下垂体腫瘍、神経鞘腫、転移性脳腫瘍など

【主な診療内容】
脳腫瘍の診断、外科手術、病理診断、薬物療法、術後管理、リハビリテーション、
放射線治療施設等との地域医療連携

社会医療法人柏葉会(はくようかい)は、「信頼と尊敬の医療」を理念とし、北海道札幌市で脳疾患救急を中心に診療する医療法人です。1971年に脳と神経の専門病院として「柏葉脳神経外科病院」として開業し、現在では年間、約2,500台の救急車を受け入れ、約500件の手術を行っています。
高度脳血管病センターや脳血管内治療センターを備え、高難度の脳疾患治療を行う傍ら、先端医療研究センターでは人工知能を用いた臨床研究を行い、北海道大学大学院の臨床連携講座にもなっています。2020 年に社会医療法人化し、2021年には「かしわば記念クリニック」を開業。2024 年には、フラッグシップ病院となる「札幌柏葉会病院」と神経難病診療を行う「脳神経内科かしわば病院」を同時に札幌市内に開院。

メディアの皆さまにご取材いただける内容

- 脳腫瘍センター開設の背景・専門的な治療を受けられる体制づくりについて
- 遠藤将吾センター長への単独インタビュー
- 専門性の高い脳腫瘍手術と、それを支える医療環境の撮影
- 手術後の地域と連携した継続的な診療体制について
- 脳腫瘍の基礎知識や治療方法、脳神経外科医療についての医師解説 など

本プレスリリース・取材に関するお問い合わせ

札幌柏葉会病院
担当：社会医療法人柏葉会 法人本部 広報部広報室 押領司 美香
TEL：011-876-9100　E-mail：m.oryoji@hakuyo-kai.or.jp

▼脳腫瘍センターHPはこちら